

## 1 研究主題

思考力・表現力の向上を目指して  
～かかわり合う授業を通して～ 2年次

## 2 主題設定の理由

### (1) 学校の教育目標・重点目標から

当校の教育目標と年度の重点目標は、次のとおりである。

#### 【教育目標】

○ 豊かにかかわり 伸びゆく子ども

#### 【年度の重点目標（知育）】

○ 進んでかかわり 問題を解決する子ども

### (2) 学習指導要領の視点から

社会の変化が激しい現代、子どもたちに生きる力をはぐくむことは最たるねらいである。すなわち、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた子どもの姿を具現することである。そのためには、子どもたちに、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を身に付けさせることが急務である。その際、すべての教科で「言語活動の充実」を図ることが有効である。

### (3) 校内研究の経緯

平成28年度は、研究主題「思考力・表現力の向上を目指して～かかわり合う授業を通して～」について、研修した。そこでは、まず本時のねらいや課題に対して、教師と子ども、子ども同士でかかわり合うことにより、解決の見通しや意欲もてる「問い・願い」を設定する。次に、かかわり合いながら解決する。それから、その過程が分かるように学習内容を整理、統合した「まとめ」を行い、自己の学びを振り返る。結果、子どもたちは授業の流れを理解し見通しをもって解決する姿が見られた。また、かかわり合いのよさを実感している子どもが93.8%（12月）と高く、学習成果が見られた。

しかし、次のような課題が見られた。

- ・ねらいに合った子どもの問い・願いを早い段階で一致させることが難しく現段階では、教師からの提示が多くなってしまっている。
- ・「身に付けさせたい力」（ねらい）、「問い・願い」「まとめ」「振り返り」にねじれが見られる実践があった。
- ・全体でのかかわり合う場面で、友達を考えから自分の考えを深めていこうという意識が弱い。

#### (4) 児童の実態から

##### <学力テストの結果から>

平成27年度学習指導改善調査の結果、国語で3学年，算数で2学年，理科で2学年，県の平均正答率を下回っていた。また，すべての教科で説明などの記述問題に無答が見られ，指導の課題となった。

平成28年度学習指導改善調査の結果，次のようなことが明らかになった。

- ・国語，算数，理科で県の平均正答率を下回っていた。
- ・国語は，すべての学年で県との比較値が4年で6.3ポイント，5年で0.6ポイント，6年で2ポイント縮まってきた。
- ・算数は，6年で1.8ポイント県平均に近づいてきたものの，4年，5年は，昨年度より下回っている。
- ・理科は，4年が県との比較で9.1ポイント縮まっているものの，5年，6年では，差が大きくなっている。

平成28年度学習指導改善調査結果

国語正答率			
	4年	5年	6年
県平均	72.4	53.6	72.3
自校	63.5	37.1	67.9
県との比較値 27年度	- 8.9 (- 15.2)	- 16.5 (- 17.1)	- 4.4 (- 6.4)
算数正答率			
	4年	5年	6年
県平均	70.3	75.0	73.2
自校	56.5	73.5	63.6
県との比較値 27年度	- 13.8 (- 4.6)	- 1.5 (+ 1.7)	- 9.6 (- 11.4)
理科正答率			
	4年	5年	6年
県平均	64.4	58.9	74.3
自校	60.8	47.8	66.7
県との比較値 27年度	- 3.6 (- 12.7)	- 11.1 (- 2.9)	- 7.6 (+ 2.6)

\*比較値の()は,昨年度の数値

- ・同一集団で，県との差を昨年度と比較すると，5年は算数3.1ポイント，理科1.6ポイント，6年は国語12.7ポイント向上した。

昨年度と同様に，記述問題に課題が見られた。資料を読み取る力，理由を説明する力など重点化して授業改善していく必要がある。

##### <日常の姿から>

- ・発表の機会を多く与えるようにしているが，個人差が見られる。
- ・全校の子どもの自己肯定感が昨年度83.7%，今年度89.4%と向上している。しかし，4年生以上になると17名の子どもの自己肯定感が低い傾向にある。
- ・学習ノートに，自分の考えや振り返りを書ける子どもが昨年度より増えている。

### 3 研究の内容

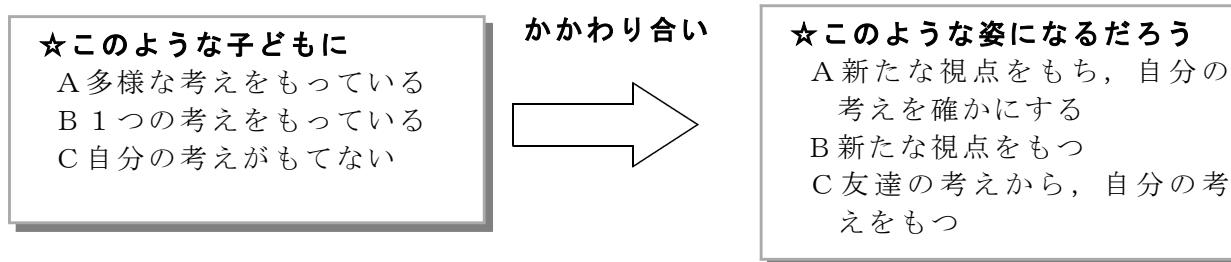
#### (1) 日常的に「書く」内容の充実

思考力・表現力を支える力として「書く力」を付けていく。特に，資料を読み取る力，理由を説明する力を重点化する。

国語	資料から根拠を探し，自分の考えを明確にしながら書くこと
算数	問題場面を適切に読み取り，筋道を立てて考え，図・言葉・式などを用いて説明すること

## (2) 「かかわり合い」(考えの広がり, 深まり) の具体化

・指導案を立てる際に, 期待するかかわり合いの姿を位置付ける。



## (3) 「思考力・表現力」を習得させるための授業のあり方を探る。

### <学習過程の構想>

- ①身に付けさせたい力を明確にする。
- ②かかわりを通して, 授業の冒頭で, 「問い・願い」をもたせる。
  - ・思考のズレを生かして, 子どもに「問い・願い」をもたせる。
- ③かかわりを通して考えを広げさせたり, 深めさせたりする。
  - ・自分と教材・ノートとのかかわり・・・自分の考えをもつ
  - ・ペア・全体でのかかわり・・・解決に向けての話し合い
- ④授業の最後に, 学習したことをまとめたり, 振り返りを書かせたりする。
  - ・「身に付けさせたい力」(ねらい), 「問い・願い」「まとめ」「振り返り」にねじれがないように整合させる。

## 4 研究の方法

- (1) 3(1)を具現する授業実践を行い, 子どものノート・発言・態度等の実態から身に付けさせたい力を習得できたか検証する。
- (2) 「かかわり合い」(考えの広がり, 深まり) について, 教師の見取り, 子どもの振り返りやアンケートで検証する。
- (3) 国語科・算数科を中核とし, 日々の授業で意識して書かせ, 子どもが書いた作文・ノートや板書の写真を持ち寄り, 教師間で情報交換をする。

## 5 研究計画

- 授業研究は国語・算数を基本とする。(全職員が1人1実践以上行う)
- 指導案は, A 4・1~2枚程度で身に付けさせたい力・目指す子どもの姿, 児童の実態(書くこと・かかわり合い), 評価を明確にして記述する。指導案と考察・板書・子どものノートは, 研究ファイルに蓄積していく。
- 学期1回以上家庭学習に関する情報交換会・各学力テスト・Webテストの分析などの研修を行っていく。
- 日々の授業で, すこらe(県小教研発行)などで紹介された有効な実践を活用する。
- 自主研修を行い, 先進校の授業を参観したり, よい授業実践の紹介をしたりする。

月	内 容	授業者	司会・記録・写真等	備考
4	・研修計画の立案		小林・研推	
5	・研修計画の検討 ・授業研究①	戸田(特支)	小林・全職員 学年部	
6	・授業研究② ・授業研究③	風間(3年) 小林(1年)	学年部 学年部	

7	・授業研究④ ・家庭学習・パワーアップ情報交換会 ・サマースクール	濱田（5年）	学年部 地域連携担当 地域連携担当	
8	・全国学力テストの分析 ・県小教研学習指導改善調査の分析 ・Webテストの結果報告と改善策		6年担任・全職員 全職員 全職員	
9	・授業研究⑤年（県小教研報告会） ・授業研究⑥年	百崎（6年） 阿達（2年）	学年部 学年部	
10	・授業研究⑦年 ・授業研究⑧（初任者研修）	椎（級外） 松本（4年）	学年部 学年部	
11	・家庭学習・パワーアップ情報交換会		地域連携担当	
12	・本年度研究の反省と来年度研究へ向けての計画		小林・研推	
1	・研究ファイルの整理		全職員	
2	・NRT学力テストの分析 ・家庭学習情報交換会		椎・各担任 全職員	
3	・来年度研究の確認		小林	

#### <研修チーム>

下学年部・・・校長，小林尚，阿達，風間，戸田，松川  
 上学年部・・・教頭，松本，濱田，百崎，椎，

\*授業研究，協議会の際には，各部で相談し，カメラ，記録（授業），司会等の分担をし，授業者をサポートする。写真は複数で撮る。

\*協議会は，2つのチームに分かれて，附箋を使ってファシリテーション形式でまとめる。

## 6 研究会に向けて

### (1) 日時について

平成29年9月12日（火）

### (2) 要項の準備

- ①日程・参加者名簿・協議会・・・教頭
- ②研究計画・・・研究主任
- ③かかわり合う姿の系統表・・・研究推進部
- ④平成28年度実践（指導案・実践のまとめ）

### (3) 発表の準備

- ①研究の概要・成果と課題について・・・教頭・研究推進部・視聴覚部

### (4) 当日の公開授業

- ①授業公開 6年 百崎先生

#### ②講師

下越教育事務所指導主事 森 和人 様